

令和3年度「まちかどコメンテーター」

アンケート調査結果

<抜粋版>

鹿児島市

・第1回

- 1 コミュニティサイクル「かごりん」について（環境政策課）
- 2 生物多様性について（環境保全課）

目 次

| | | |
|-----|----------------------------|----|
| I | 調査の概要 | 1 |
| II | コミュニティサイクル「かごりん」について | 4 |
| III | 生物多様性について..... | 15 |

I 調査の概要

1. まちかどコメンテーターの概要

(1) まちかどコメンテーターとは

市民の皆様「まちかどコメンテーター」になってもらい、市民目線の意見・提言を聴取するとともに、市民のニーズを把握し、市政運営の参考とさせていただくものです。

また、アンケートを通じて、市民の皆様の市政への関心・興味を深めていただくことも目的としています。

(2) まちかどコメンテーターの選定方法

市内に住むか通勤・通学する 18 歳以上の方を対象とし、一般公募及び住民基本台帳から無作為抽出した市民 2,500 人への就任依頼において、応募・承諾いただいた方により構成しています。

(3) 任期

令和 3 年 7 月 1 日～令和 4 年 6 月 30 日

(4) 人数

329 人（第 1 回調査実施時点）

(5) 所管課

市民局 市民文化部 市民協働課

2. 第1回調査の概要

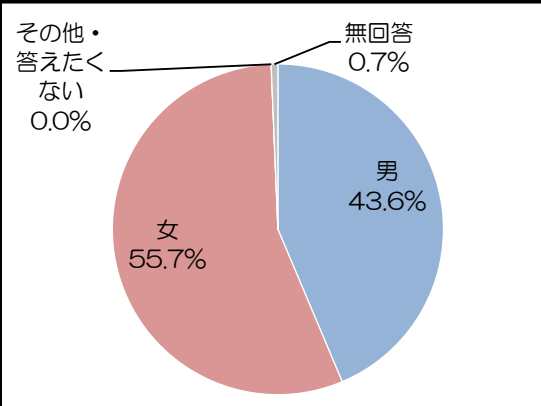
(1) 調査概要

| | | |
|---------|-----------------------------------|----------------|
| テーマ/担当課 | コミュニティサイクル「かごりん」について 生物多様性について | 環境政策課 環境保全課 |
| 調査期間 | 令和3年7月2日～7月23日 | |
| 回答率 | 93.3% (307人) | |

(2) 回答者属性

① 性別

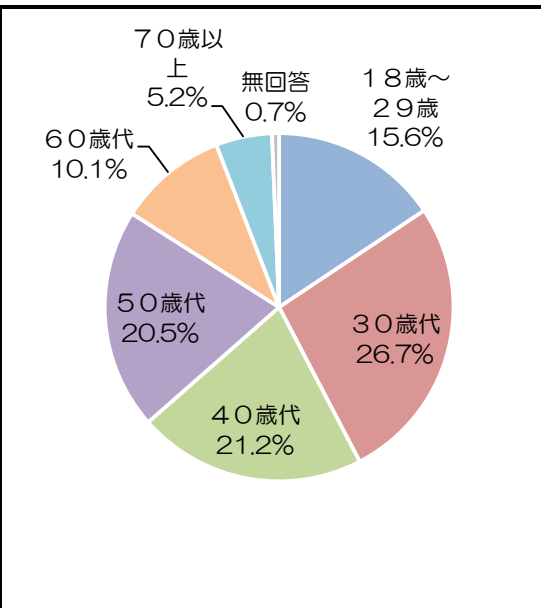
| 選択肢 | 回答数 | 割合 |
|------------|-----|--------|
| 男 | 134 | 43.6% |
| 女 | 171 | 55.7% |
| その他・答えたくない | 0 | 0.0% |
| 無回答 | 2 | 0.7% |
| サンプル数 | 307 | 100.0% |



Other chart data: 男 43.6%, 女 55.7%, 無回答 0.7%, その他・答えたくない 0.0%

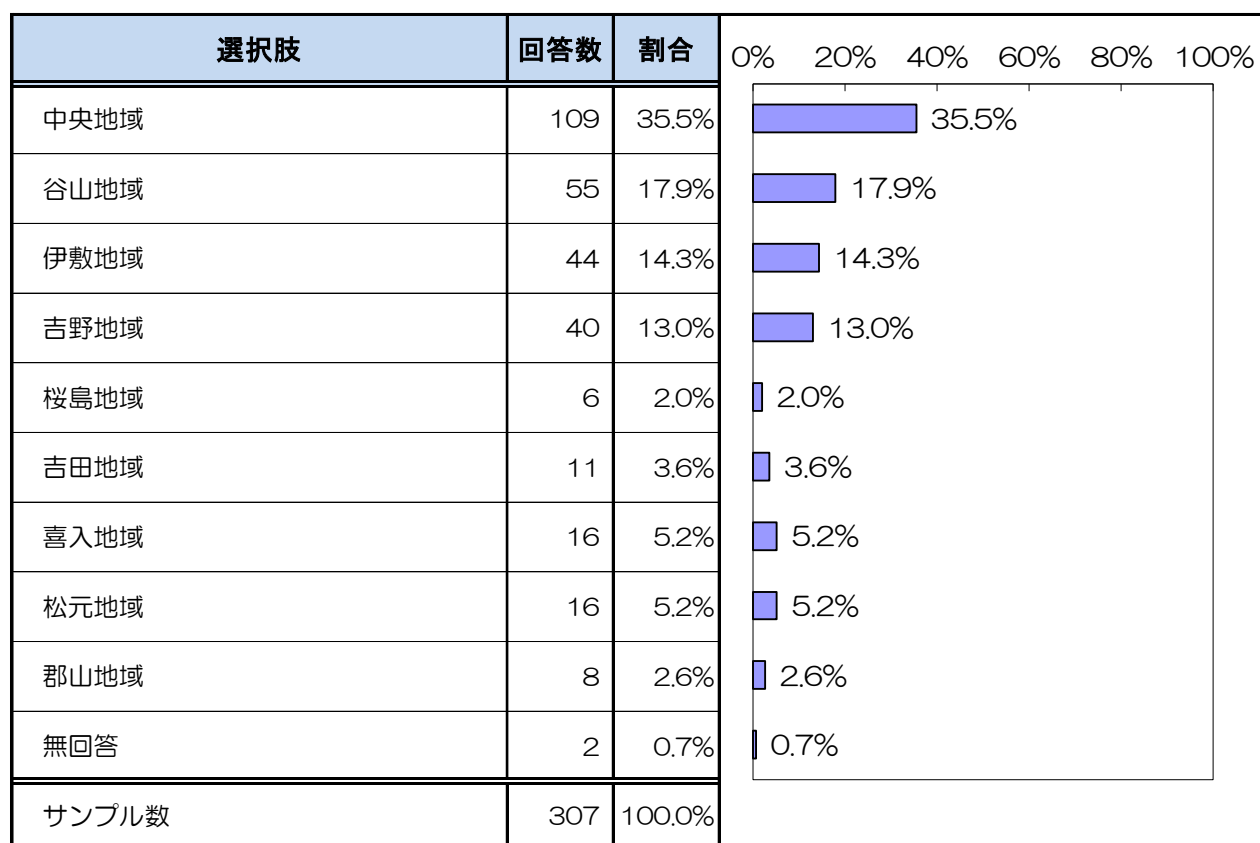
② 年代

| 選択肢 | 回答数 | 割合 |
|---------|-----|--------|
| 18歳～29歳 | 48 | 15.6% |
| 30歳代 | 82 | 26.7% |
| 40歳代 | 65 | 21.2% |
| 50歳代 | 63 | 20.5% |
| 60歳代 | 31 | 10.1% |
| 70歳以上 | 16 | 5.2% |
| 無回答 | 2 | 0.7% |
| サンプル数 | 307 | 100.0% |



Other chart data: 18歳～29歳 15.6%, 30歳代 26.7%, 40歳代 21.2%, 50歳代 20.5%, 60歳代 10.1%, 70歳以上 5.2%, 無回答 0.7%

③ 居住地域



3. 報告書上の留意点

- ・ 構成比は小数点第2位以下を四捨五入して表示しているため、合計が合わない場合があります。
- ・ 複数回答可の質問の構成比の合計は100%を超えることがあります。
- ・ 設問文や選択肢等の表記において、原文より変更している場合があります。
- ・ 本報告書<抜粋版>においては、その他への具体的回答内容及び自由回答設問の回答内容部分を一部割愛しています。

Ⅱ コミュニティサイクル「かごりん」について

1. 調査の目的

本市では、自家用車等から環境にやさしい自転車プラス公共交通による移動への転換を促進し、CO₂排出量の削減を図るとともに、市内中心部の回遊性向上や観光の振興に寄与することを目的として、市内中心部に設置する27か所のサイクルポートで、どこでも自転車の貸出・返却ができるコミュニティサイクル「かごりん」を運営しています。

「かごりん」の利用回数は増加傾向にあり、通勤・通学や観光客の方の利用が定着してきているように思われます。

今回、より使いやすく、環境にもやさしい移動手段としてもっと多くの方に利用していただくため、アンケートを実施します。

2. 調査結果を受けての担当課（環境政策課）からのコメント

「かごりん」について、「知っている」方は90%以上とのことから、多くの方に「かごりん」を認知していただけているということが分かりました。

しかし、「利用したことがない」方がまだまだ多く、そのうち約25%の方が「利用方法がよく分からず、難しそうだから」と回答されていることや、自由意見でも同様の回答をされた方がいらっしゃることから、利用方法の周知不足が課題の一つとなっていることが分かりました。

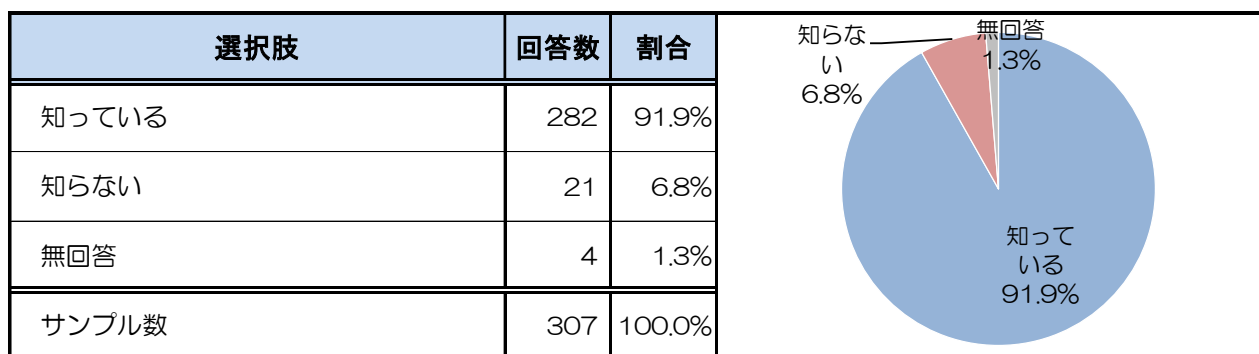
また、「利用したことがない」方のうち、自家用車やバイクでいつも移動している方が80%以上いらっしゃいましたので、本市としては、自家用車等から環境にやさしい自転車プラス公共交通による移動への転換を引き続き促進していきたいと考えております。

今回の調査結果を活用して、運用の改善や今後の利用促進策の検討、利便性の向上に取り組んでまいります。

3. 調査結果

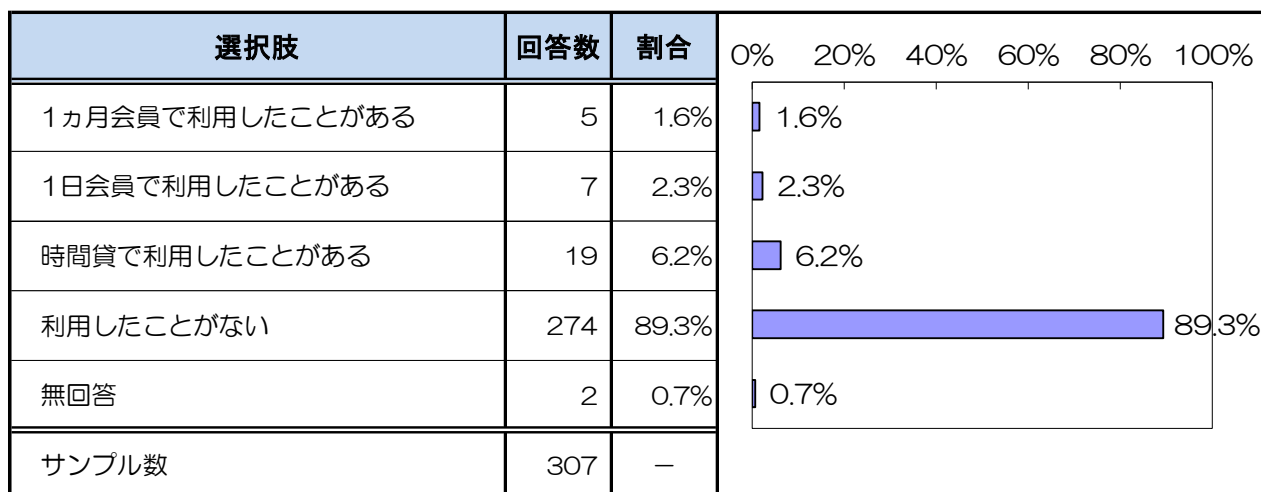
問1 あなたは「かごりん」を知っていますか。(単一回答)

「知っている」が91.9%、「知らない」が6.8%となっています。



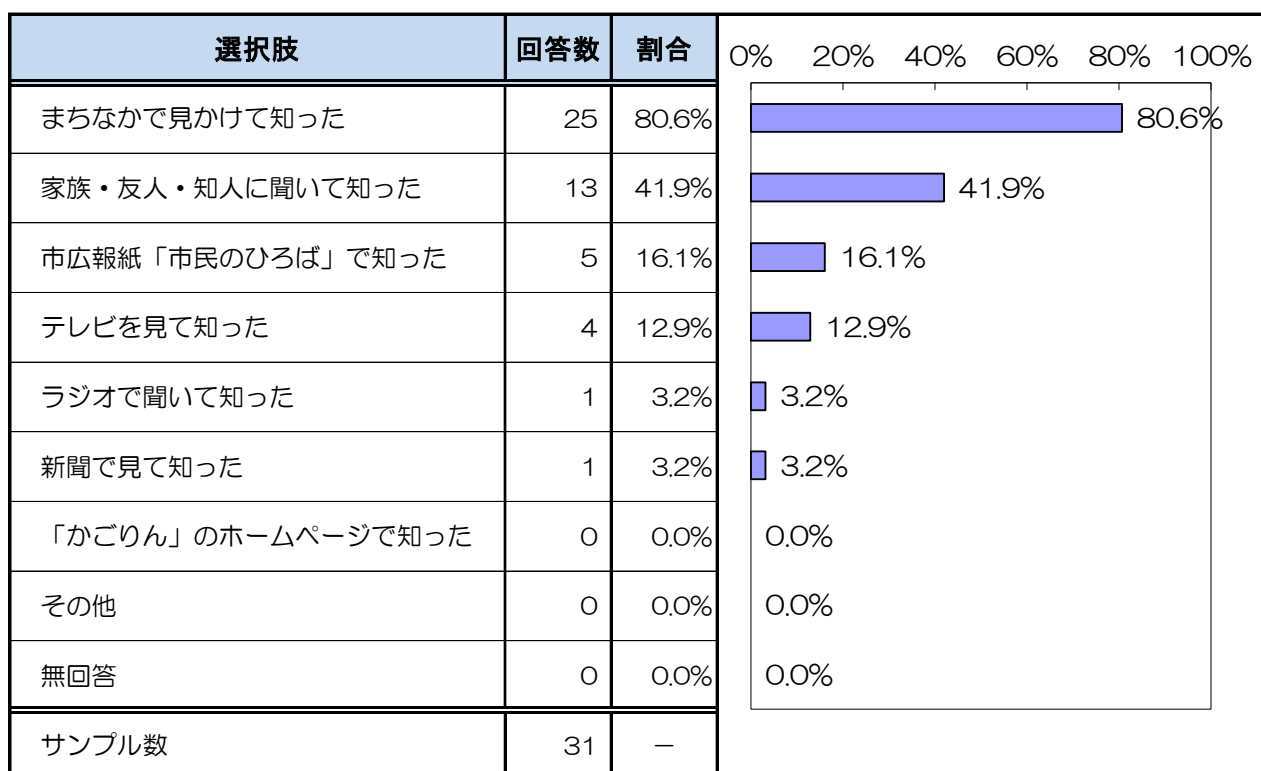
問2 「かごりん」を利用したことがありますか。(複数回答)

「利用したことがない」が 89.3%と最も高く、次いで、「時間貸で利用したことがある」の 6.2%、「1日会員で利用したことがある」の 2.3%の順となっています。



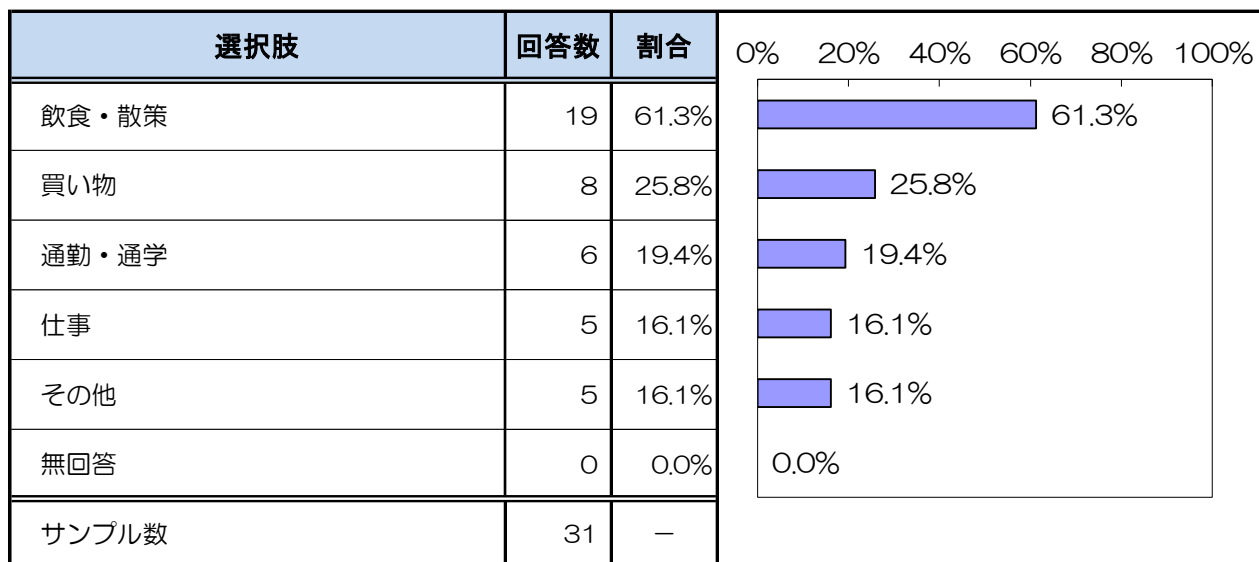
問3 問2で「かごりん」を利用したことがあるとお答えした方にお伺いします。「かごりん」の情報をどのように知りましたか。(複数回答)

「まちなかで見かけて知った」が 80.6%と最も高く、次いで、「家族・友人・知人に聞いて知った」の 41.9%、「市広報紙「市民のひろば」で知った」の 16.1%の順となっています。



問4 問2で「かごりん」を利用したことがあるとお答えした方にお伺いします。どのような目的で利用しましたか。(複数回答)

「飲食・散策」が61.3%と最も高く、次いで、「買い物」の25.8%、「通勤・通学」の19.4%の順となっています。

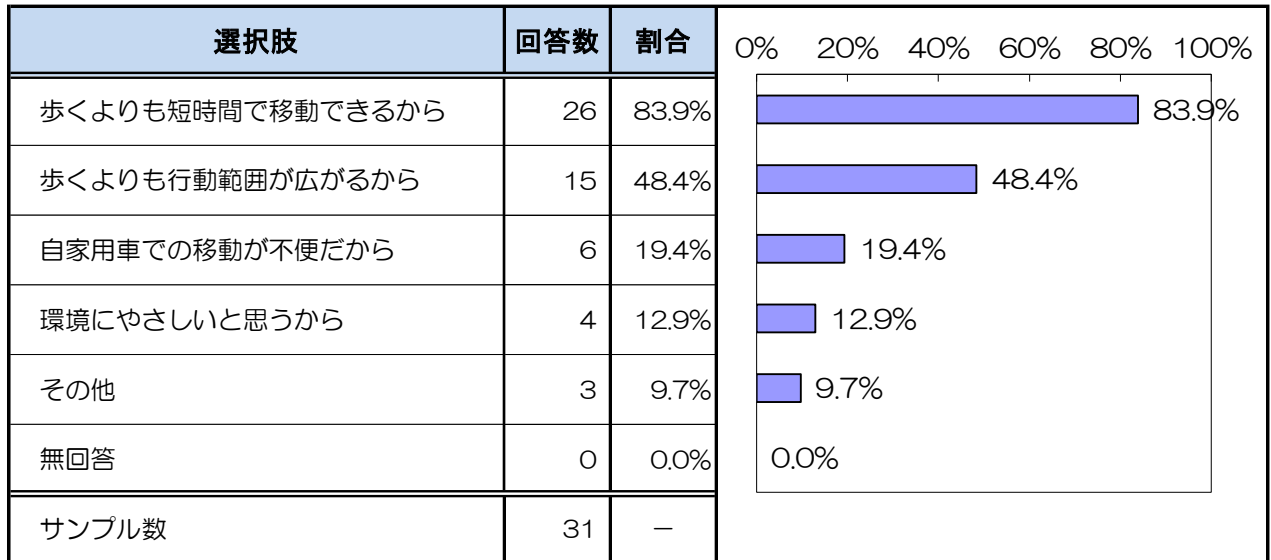


◆その他の回答（一部抜粋・原文まま）

- ・ 県外から友人が来たときに、中央駅で待ち合わせをし、かごりんて鹿児島の名所をまわるというのを何回かしたことがあります。途中ランチを挟んだり。自転車だと車では通らない道を通るので、新しい発見があります風を感じたり、花の香りも飛び込んでくるし、友人にも好評です。

問5 問2で「かごりん」を利用したことがあるとお答えした方にお伺いします。どのような理由で利用しましたか。(複数回答)

「歩くよりも短時間で移動できるから」が83.9%と最も高く、次いで、「歩くよりも行動範囲が広がるから」の48.4%、「自家用車での移動が不便だから」の19.4%の順となっています。

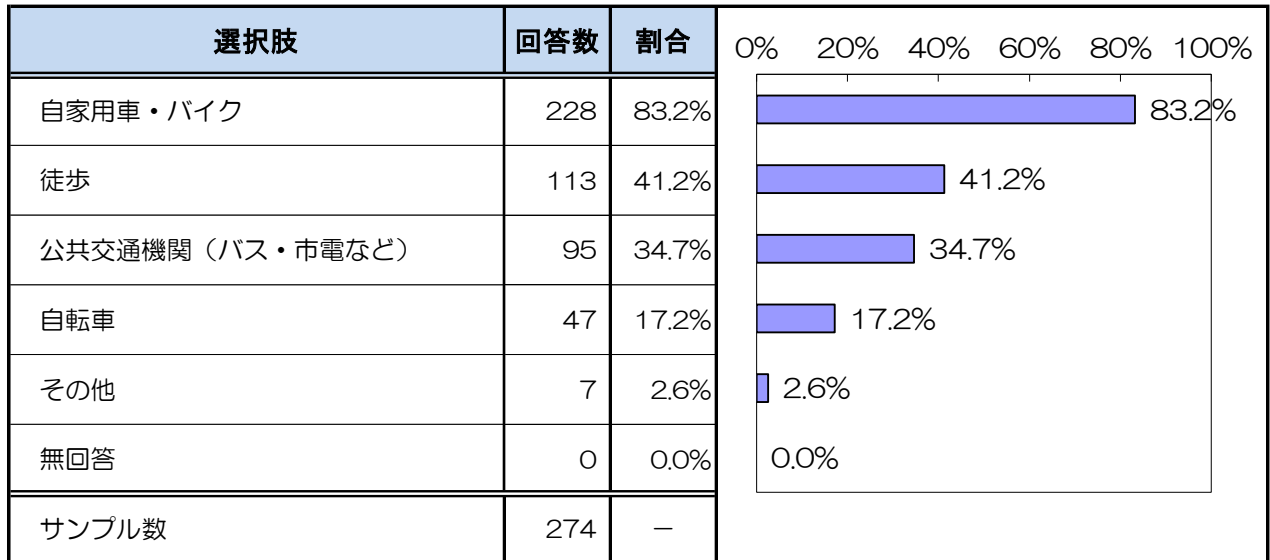


◆その他の回答（一部抜粋・原文まま）

- ・そこに行くまでの路線バスがわからず、自転車の方が早く着けると思ったからです
- ・安かったから
- ・利用した当時、かごりんがどんなものか、使い勝手がどうか興味があったから

問6 問2で「かごりん」を利用したことがないとお答えした方にお伺いします。いつもどのような手段で移動していますか。(複数回答)

「自家用車・バイク」が 83.2%と最も高く、次いで、「徒歩」の 41.2%、「公共交通機関（バス・市電など）」の 34.7%の順となっています。

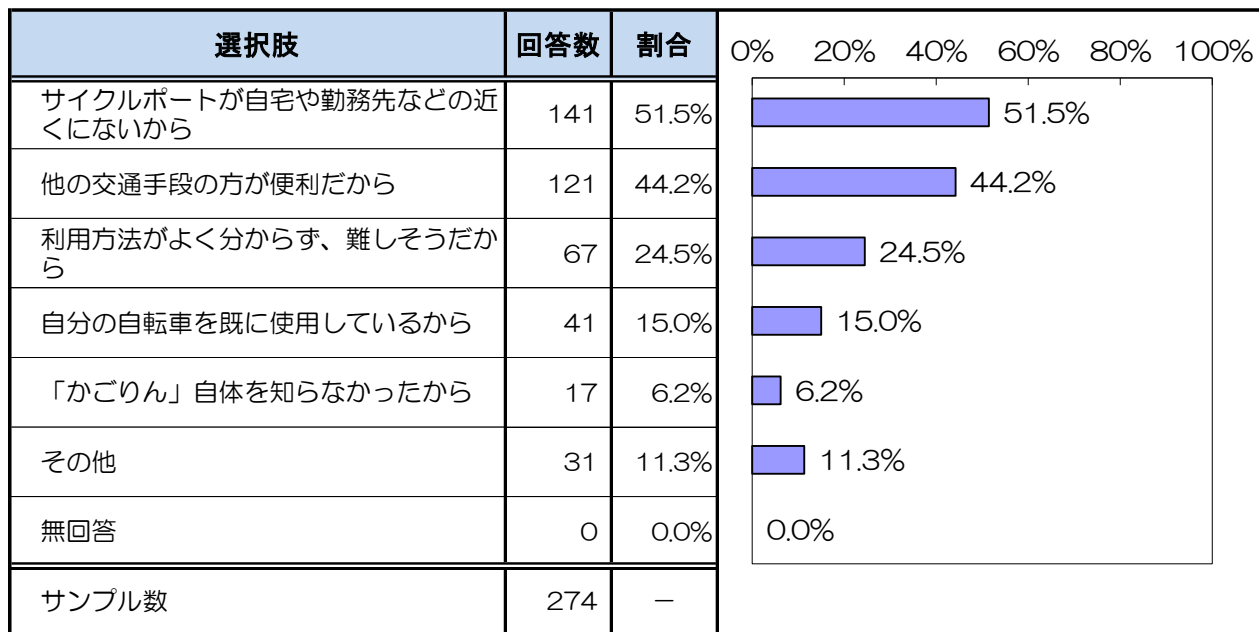


◆その他の回答（一部抜粋・原文まま）

タクシー（2件）

問7 問2で「かごりん」を利用したことがないとお答えした方にお伺いします。利用していない理由は何ですか。(複数回答)

「サイクルポートが自宅や勤務先などの近くにないから」が51.5%と最も高く、次いで、「他の交通手段の方が便利だから」の44.2%、「利用方法がよく分からず、難しそうだから」の24.5%の順となっています。

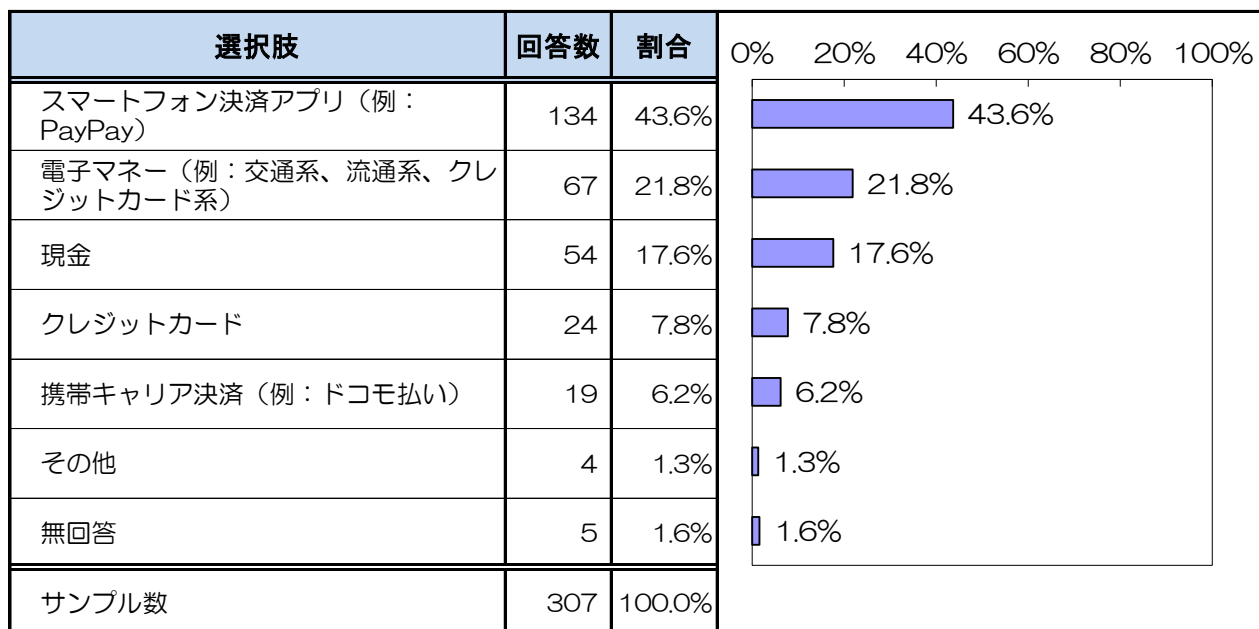


◆その他の回答（一部抜粋・原文まま）

- ・自宅が紫原（坂の上）なので。
- ・鹿児島市街地に行く際は車なので、乗る機会はない。
- ・小さい子供がいるので利用が難しい

問8 「かごりん」の料金の支払いにどのような方法があれば最も便利だと思いますか。(単一回答)

「スマートフォン決済アプリ(例:PayPay)」が43.6%と最も高く、次いで、「電子マネー(例:交通系、流通系、クレジットカード系)」の21.8%、「現金」の17.6%の順となっています。

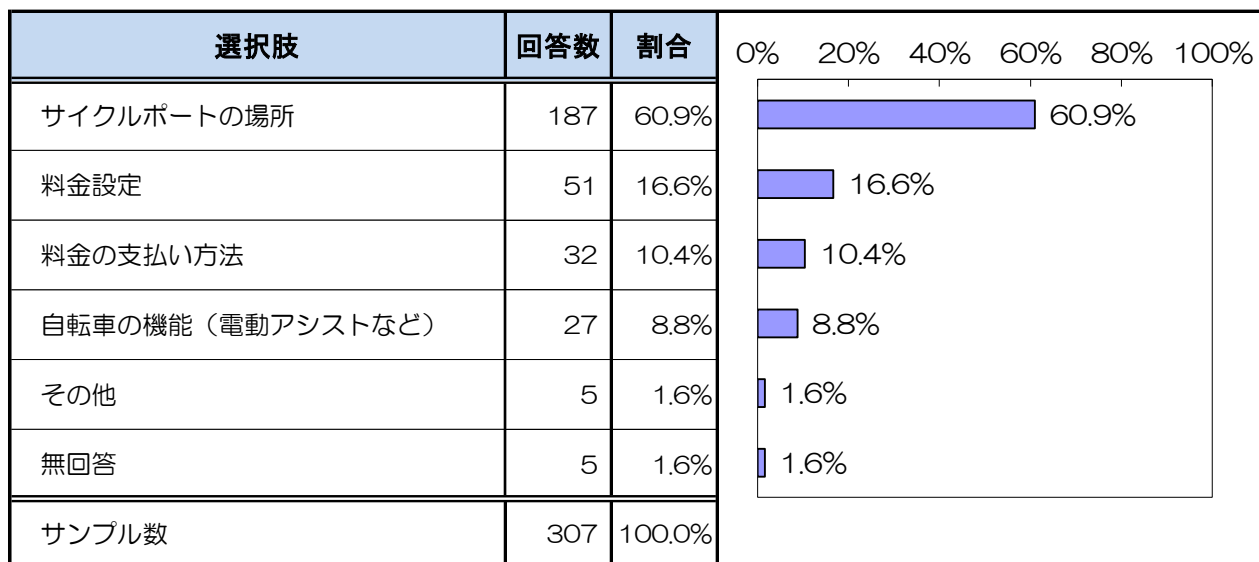


◆その他の回答(一部抜粋・原文まま)

- ・ 確実な判別が付きません。

問9 「かごりん」を利用するとしたら、どのようなことを最も重視しますか。(単一回答)

「サイクルポートの場所」が60.9%と最も高く、次いで、「料金設定」の16.6%、「料金の支払い方法」の10.4%の順となっています。

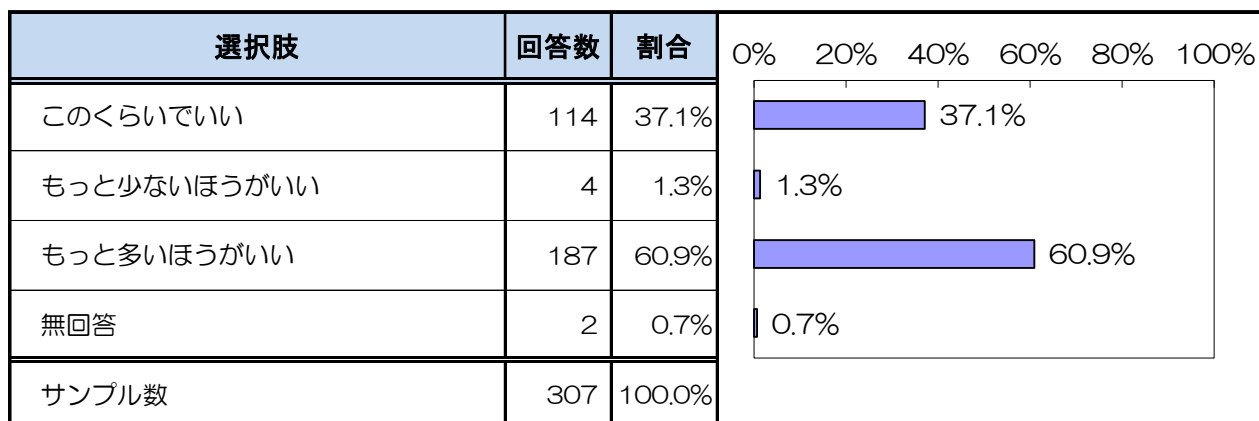


◆その他の回答（一部抜粋・原文まま）

- ・若者にとってはサイクルポートの場所、高齢者にとっては電動アシストが重要になるかと。
- ・登録の方法
- ・返却し易いかどうか

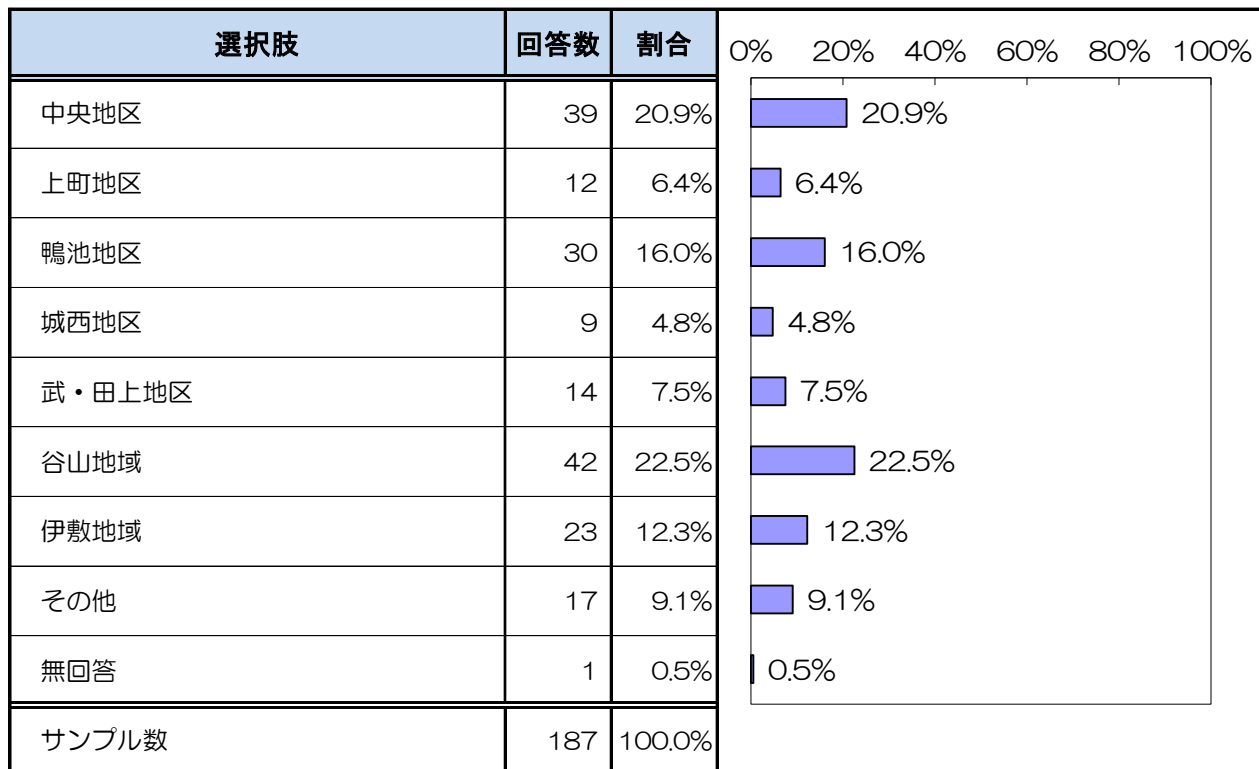
問10 「かごりん」のサイクルポートの数（市内27か所）についてどのように思いますか。(単一回答)

「このくらいでいい」が37.1%、「もっと少ないほうがいい」が1.3%、「もっと多いほうがいい」が60.9%となっています。



問 11 問10で「かごりん」のサイクルポートの数がもっと多いほうがいいとお答えした方にお伺いします。どの地域にもっとあれば最も便利だと思いますか。(単一回答)

「谷山地域」が22.5%と最も高く、次いで、「中央地区」の20.9%、「鴨池地区」の16.0%の順となっています。

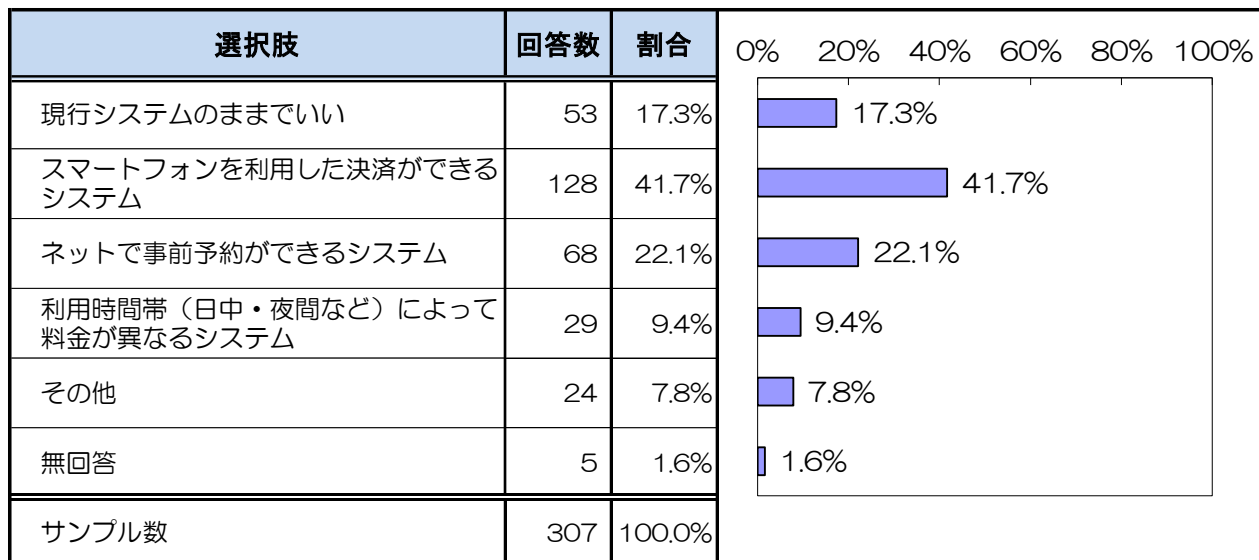


◆その他の回答（一部抜粋・原文まま）

- ・ 観光名所
- ・ 市電沿い
- ・ 不便なところにこそ、あって欲しい

問 12 「かごりん」をさらに市民の皆さんに利用していただくために、どのようなシステムが最も必要だと思いますか。(単一回答)

「スマートフォンを利用した決済ができるシステム」が41.7%と最も高く、次いで、「ネットで事前予約ができるシステム」の22.1%、「現行システムのままでいい」の17.3%の順となっています。



◆その他の回答（一部抜粋・原文まま）

- ・自転車道の更なる整備
- ・ネットで予約、決済をしてカゴリンのサイクルポートで QR コードを読み込んで使えるようにする。
- ・駐輪ポイントを増やして欲しい。

問 13 「かごりん」について、どのようなことでも構いませんので、自由にご記入ください。

◆回答一覧（一部抜粋・原文まま）

| 回答内容 | 性別 | 年代 | 地域 |
|--|----|--------|----|
| かごりんの使用目的は、鹿児島市民や県外から来ていただいた方々に幅広く使っていただくことにあると思うのですが、私みたいに山の上に住み、移動手段はいつも車であるとかごりんは観光の人達の為にあるとつい思いがちです。鹿児島市民に向けて、もっとかごりんの使用と存在を宣伝する事を推進してみても如何でしょうか。 | 女 | 60 歳代 | 中央 |
| かごりんを使ったことがないので、現状をよく知らないのですが。かごりんは、車内からも目立つような大きな道路脇に多いので、借りたり返却に時間がかかるのは、面倒とか恥ずかしさとかがありそうです。1度利用してしまえば、交通手段の候補として馴染んでいくのでしょうか。かごりんアプリとか、LINE で予約できるとか、簡単に決済できたりするシステムが欲しいです。 | 女 | 40 歳代 | 中央 |
| 設置場所を増やしたりしてもっと身近に感じられるようにしたら良いと思う。場所によってはサイクルポートに収まりきらず自転車が溢れていたりするのでそういう場所は利用者が多い証なのでもっと重点的にサイクルポートを増やすべき。 | 男 | 29 歳以下 | 中央 |

Ⅲ 生物多様性について

1. 調査の目的

山、川、海などの様々な自然のなかで、様々な生き物がつながりあって、個性豊かに生命を育んでいる状態を「生物多様性」と言います。私たちも、木陰で安らいだり、自然の恵みを食べ物や薬などとして利用して、生き物とのつながりのなかで暮らしています。

本市では、この「生物多様性」の保全に取り組んでいますが、市民の皆さんの自然や生き物への関心度や生物多様性の言葉の認知度などを把握し、今後の事業推進の参考とするために、アンケートを実施します。

2. 調査結果を受けての担当課（環境保全課）からのコメント

生物多様性について、市民のみなさまの認知度や考えなどを伺うために、アンケートを実施したところ、多くのご回答やご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。

生物多様性という言葉について、85.0%の方が、「言葉の意味を知っている」、「言葉の意味をある程度知っている」、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」と回答され、生物多様性という言葉は浸透してきているものの、「言葉の意味を知っている」と回答された方は16.9%にとどまることから、生物多様性の保全のための取組を進めるためには、私たちとの関わりやその重要性などについて、市民の方々に、より分かりやすく伝えていく必要があることが分かりました。

また、自然とのふれあいについて、新型コロナウイルス感染症により、行動が制限される中、25.1%の方が「自然とのふれあいが増えた」と回答され、91.6%の方が「今までより自然とふれあいたい」、「今までも自然とふれあっていたが、今後も同様にふれあいたい」と回答されたことから、多くの方々が自然とふれあいを重視されていることが分かりました。

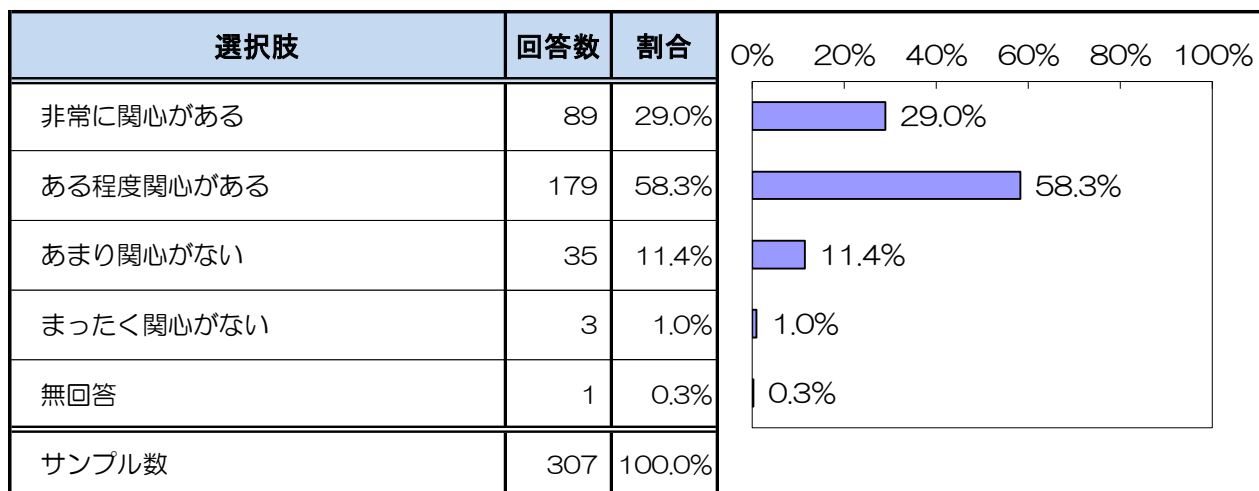
一方で、自然遊歩道及びかごしま自然百選について、62.2%の方が「どちらとも知らない」と回答され、認知度がまだまだ低いことが分かり、多くの方々が自然とふれあうことができるよう、本市の豊かな自然についてより一層の広報が必要であると考えるところです。

今回いただいた貴重なご回答を十分踏まえながら、生物多様性の保全と持続可能な利用のための取組を進めてまいります。

3. 調査結果

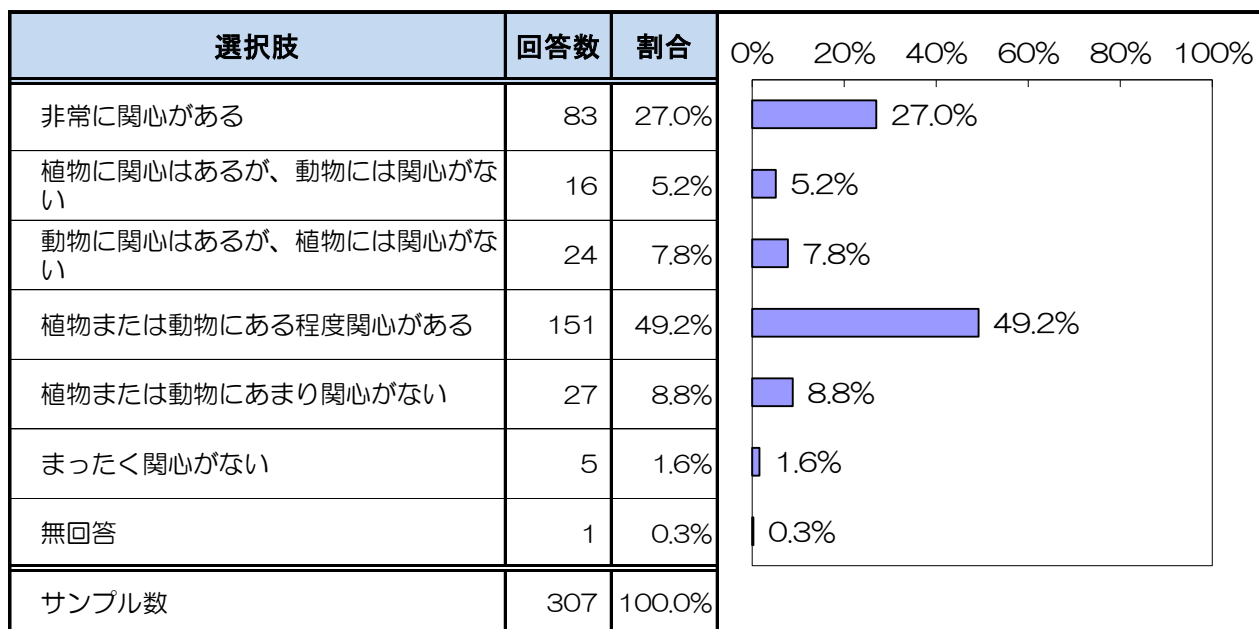
問 14 山、川、海などの自然に関心がありますか。(単一回答)

「ある程度関心がある」が 58.3%と最も高く、次いで、「非常に関心がある」の 29.0%、「あまり関心がない」の 11.4%の順となっています。



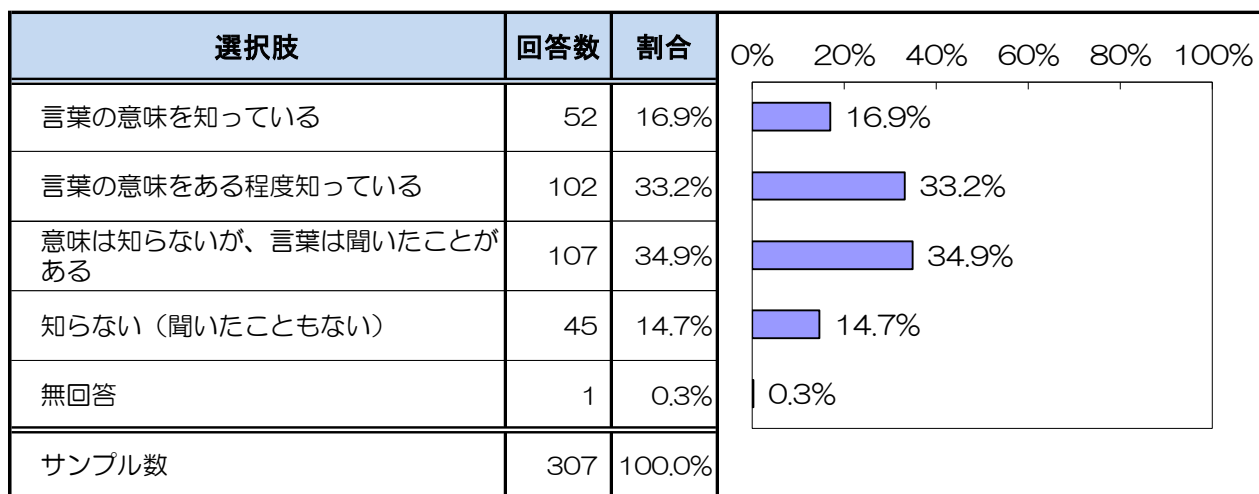
問 15 植物や動物などの生き物に関心がありますか。(単一回答)

「植物または動物にある程度関心がある」が 49.2%と最も高く、次いで、「非常に関心がある」の 27.0%、「植物または動物にあまり関心がない」の 8.8%の順となっています。



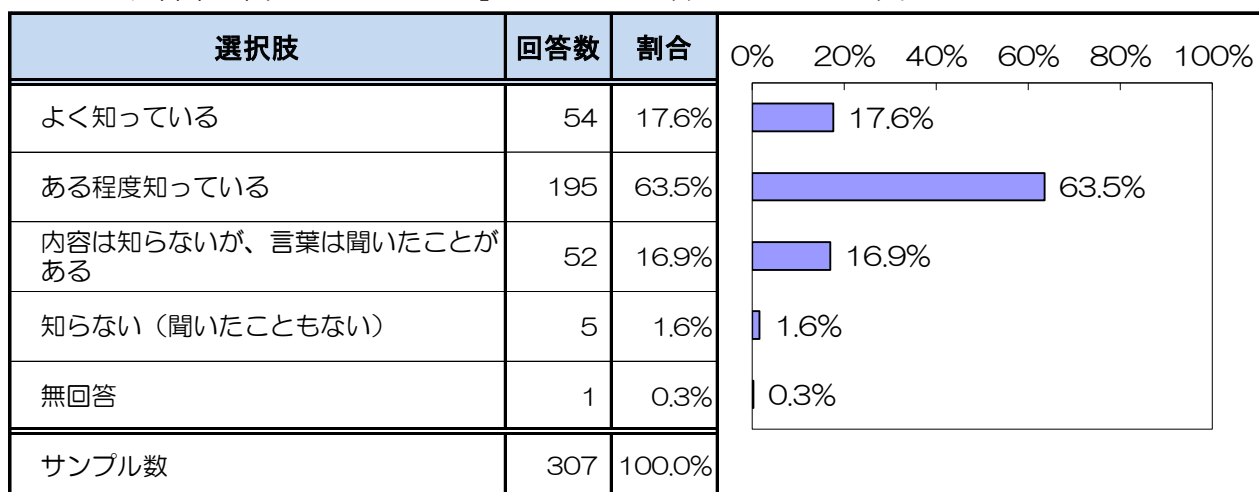
問 16 「生物多様性」という言葉を知っていますか。(単一回答)

「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」が 34.9%と最も高く、次いで、「言葉の意味をある程度知っている」の 33.2%、「言葉の意味を知っている」の 16.9%の順となっています。



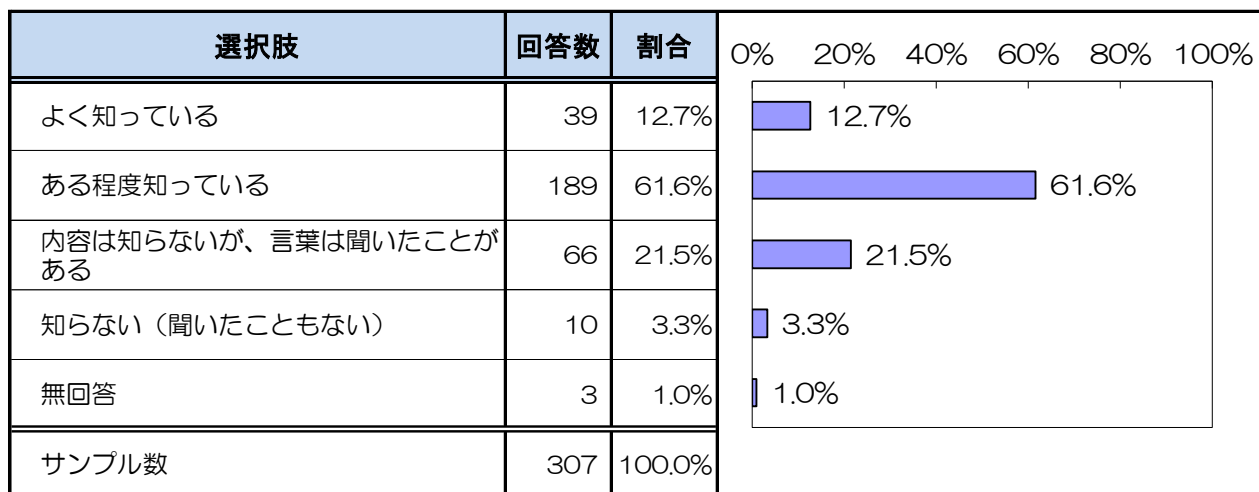
問 17 外来生物のなかには、もともとそこに棲んでいた生き物に影響を与えたり、畑の農作物を荒らしたり、人へ危害を加えたりするものが出て、近年問題となっています。このような外来生物問題を知っていますか。(単一回答)

「ある程度知っている」が 63.5%と最も高く、次いで、「よく知っている」の 17.6%、「内容は知らないが、言葉は聞いたことがある」の 16.9%の順となっています。



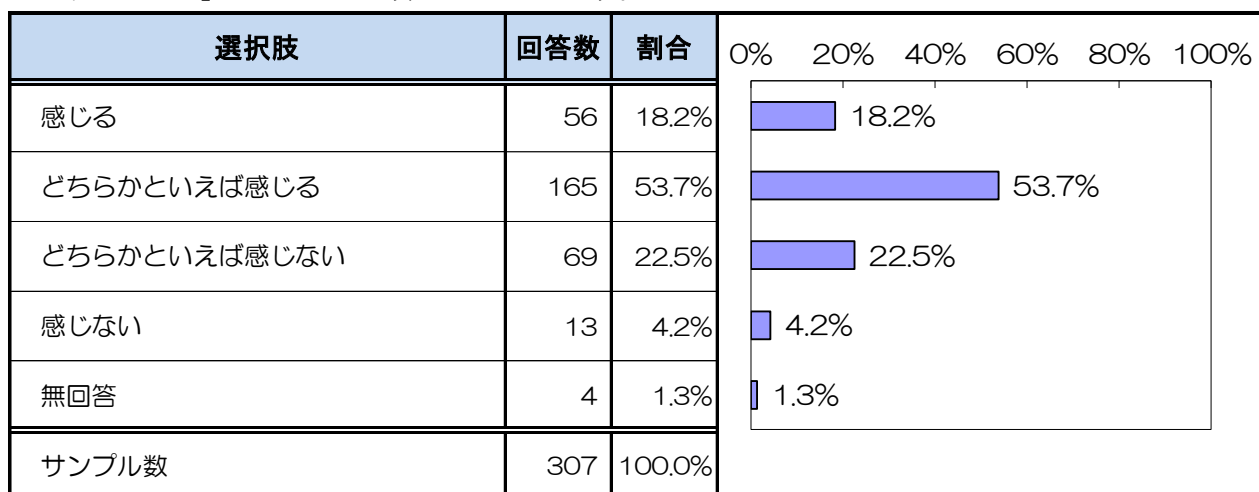
問 18 自然の減少などによって棲む場所がなくなったり、観賞用などとしてたくさん採取されたり、外来生物に食べられたりするなどして、絶滅の危機にある生き物が増えています。このような絶滅のおそれのある生き物（希少種）に関する問題を知っていますか。（単一回答）

「ある程度知っている」が61.6%と最も高く、次いで、「内容は知らないが、言葉は聞いたことがある」の21.5%、「よく知っている」の12.7%の順となっています。



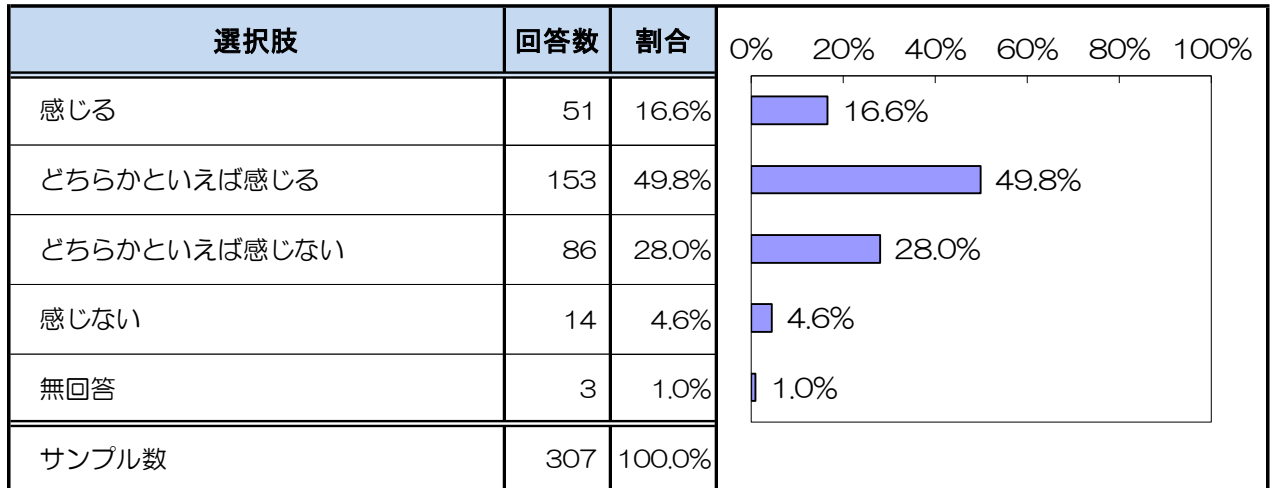
問 19 本市は「緑や水辺等の自然とのふれあいの場や機会がたくさんある」と感じますか。（単一回答）

「どちらかといえば感じる」が53.7%と最も高く、次いで、「どちらかといえば感じない」の22.5%、「感じる」の18.2%の順となっています。



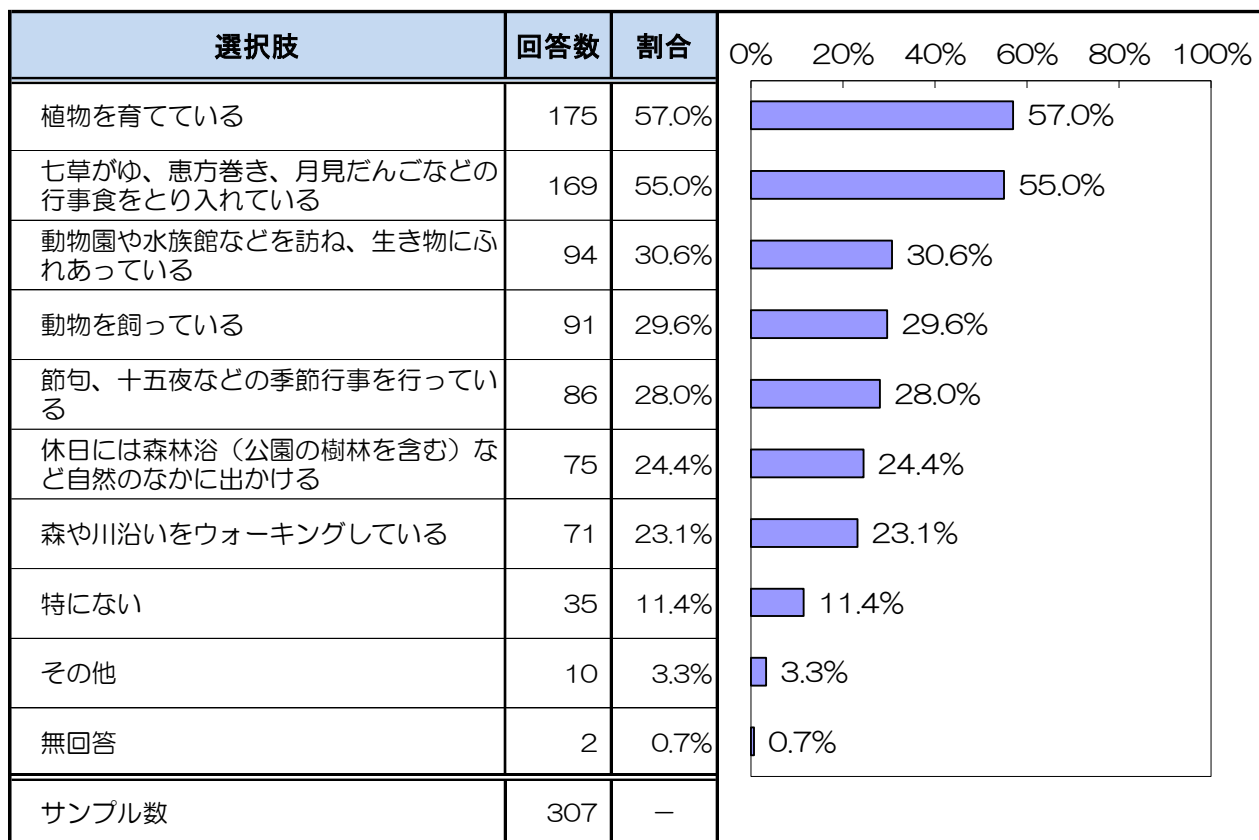
問 20 本市は「多くの生きものが暮らし、豊かな自然が残るまちである」と感じますか。(単一回答)

「どちらかといえば感じる」が 49.8%と最も高く、次いで、「どちらかといえば感じない」の 28.0%、「感じる」の 16.6%の順となっています。



問 21 日々の暮らしのなかで、自然や生き物と向き合っていますか。(複数回答)

「植物を育てている」が 57.0%と最も高く、次いで、「七草がゆ、恵方巻き、月見だんごなどの行事食をとり入れている」の 55.0%、「動物園や水族館などを訪ね、生き物にふれあっている」の 30.6%の順となっています。

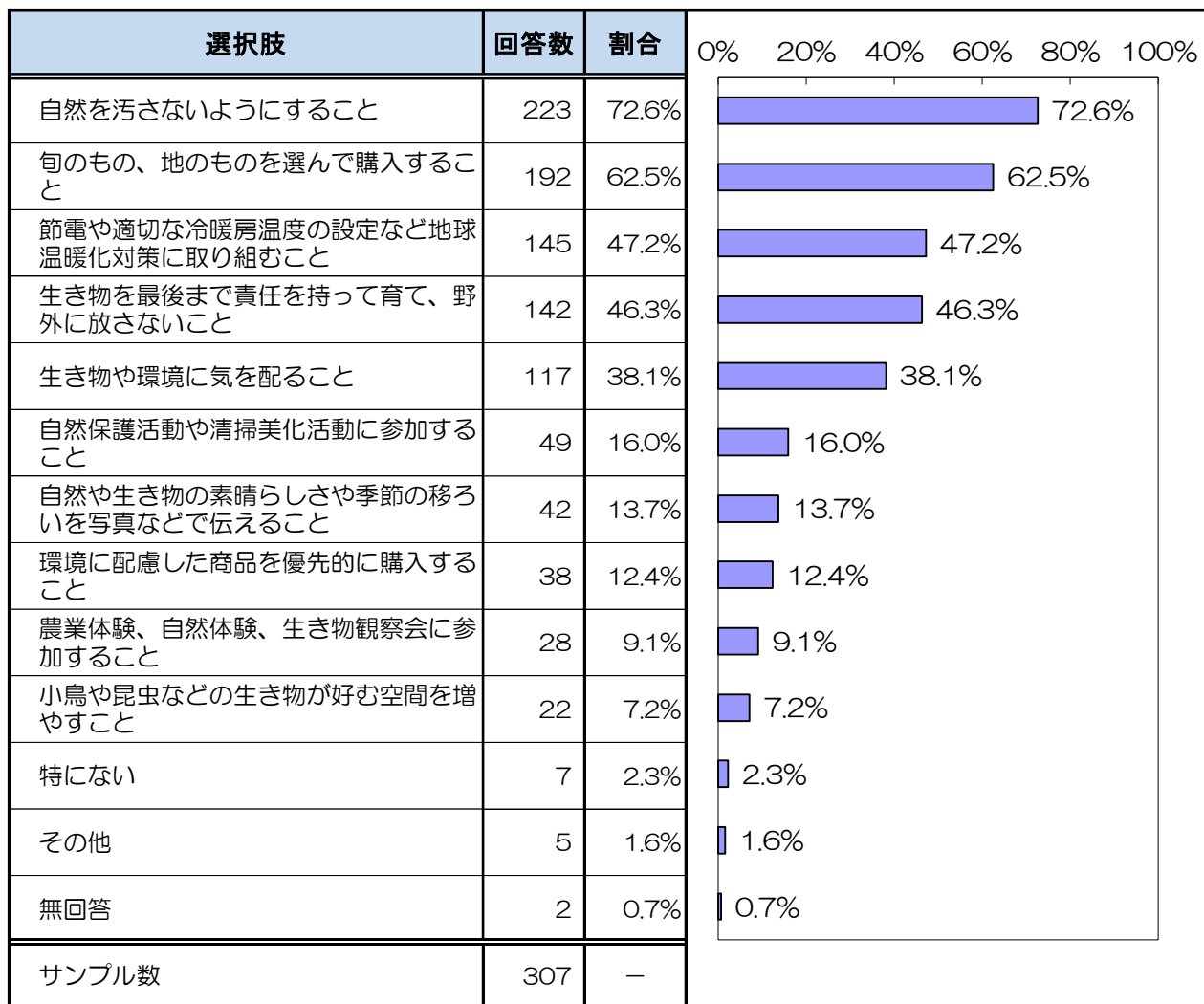


◆その他の回答（一部抜粋・原文まま）

- ・ゴミを拾う
- ・野菜を自宅で育てている
- ・写真を撮る

問 22 日々の暮らしのなかで、自然や生きものに対して、気をつけていること、取り組んでいることがありますか。(複数回答)

「自然を汚さないようにすること」が72.6%と最も高く、次いで、「旬のもの、地のものを選んで購入すること」の62.5%、「節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組むこと」の47.2%の順となっています。

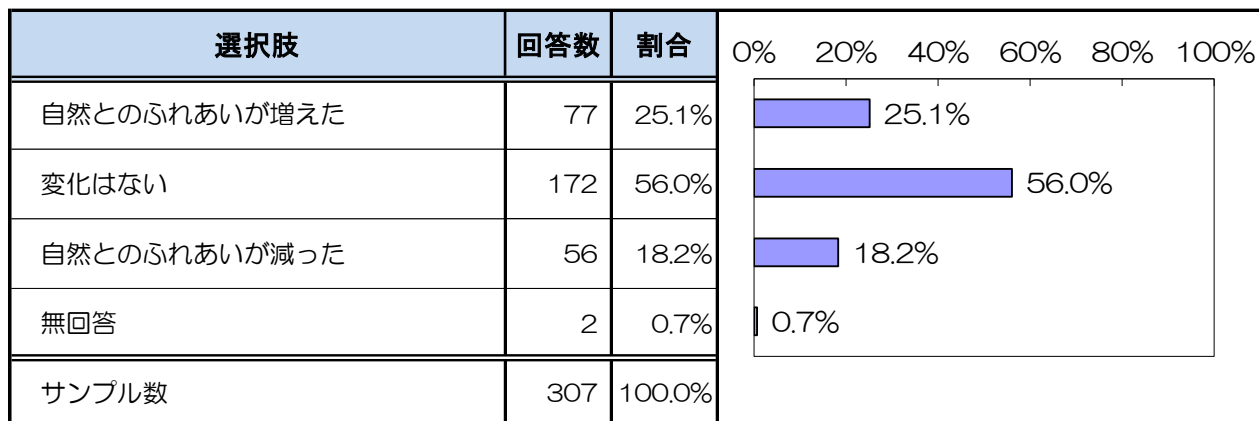


◆その他の回答（一部抜粋・原文まま）

- ・ゴミの分別をきちんとする
- ・近くの公園の清掃を週2~3日実施している。

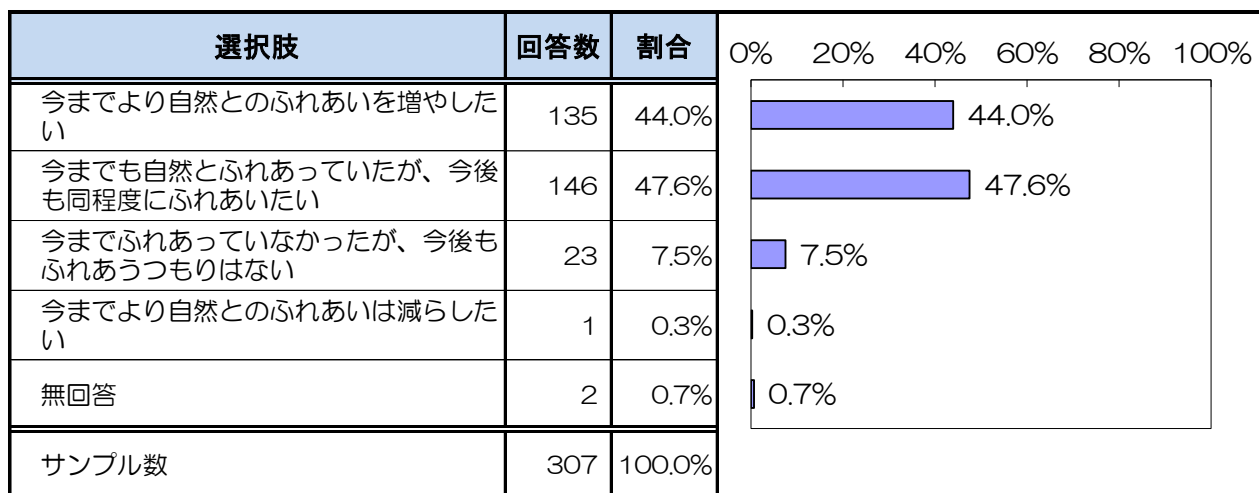
問 23 新型コロナウイルス感染症により、行動が制限される中、自然とのふれあいに変化がありましたか。(単一回答)

「自然とのふれあいが増えた」が 25.1%、「変化はない」が 56.0%、「自然とのふれあいが減った」が 18.2%となっています。



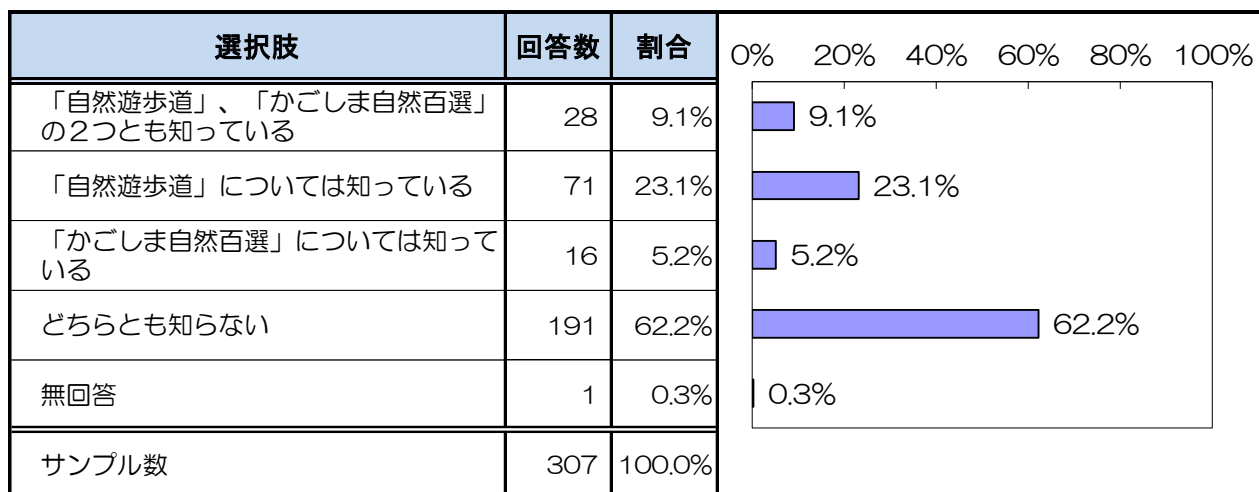
問 24 今後自然とのふれあいについてどのように考えていますか。(単一回答)

「今までも自然とふれあっていたが、今後も同程度にふれあいたい」が 47.6%と最も高く、次いで、「今までより自然とのふれあいを増やしたい」の 44.0%、「今までふれあっていなかったが、今後もふれあうつもりはない」の 7.5%の順となっています。



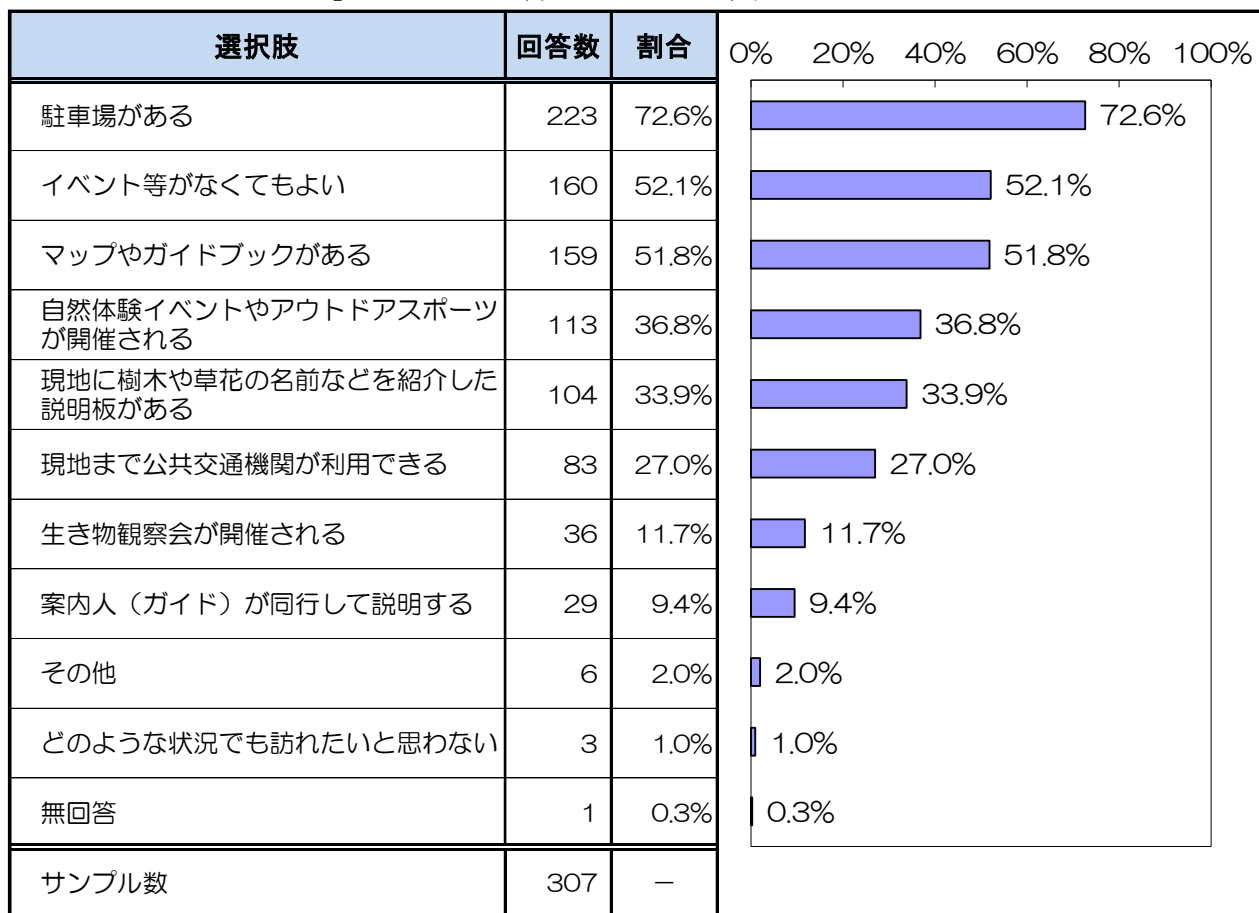
問 25 本市では、市民の皆さんに自然とふれあっていただきたいと考え、「自然遊歩道」を9箇所指定しているほか、平成27年2月には「かごしま自然百選」を選定しました。このことについて知っていますか。(単一回答)

「どちらとも知らない」が62.2%と最も高く、次いで、「自然遊歩道」については知っている」の23.1%、「自然遊歩道」、「かごしま自然百選」の2つとも知っている」の9.1%の順となっています。



問 26 「自然遊歩道」や「かごしま自然百選」に選定された自然にどのような状況なら訪れたいと思いますか。(複数回答)

「駐車場がある」が 72.6%と最も高く、次いで、「イベント等がなくてもよい」の 52.1%、「マップやガイドブックがある」の 51.8%の順となっています。

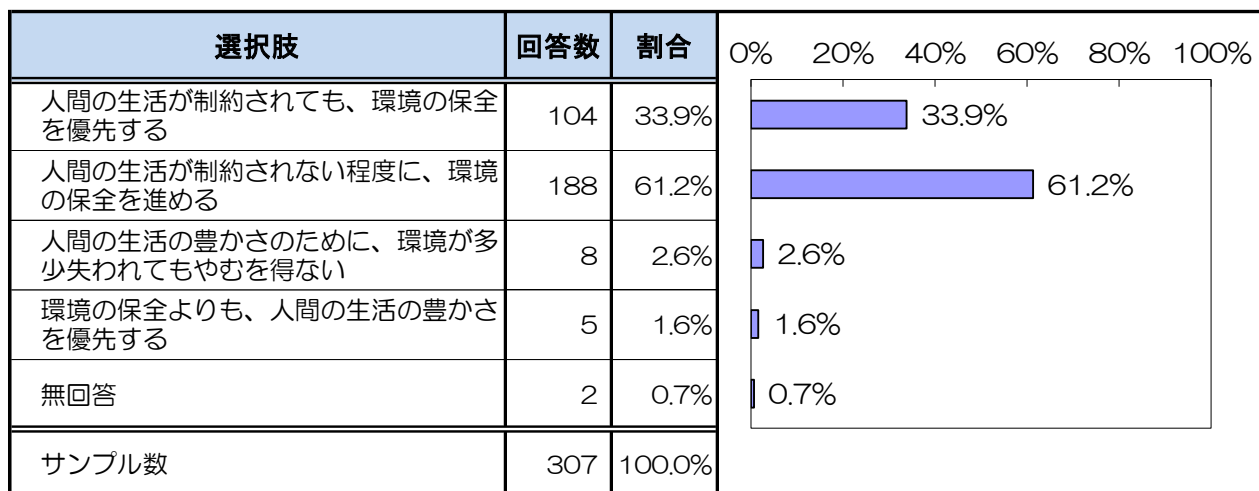


◆その他の回答（一部抜粋・原文まま）

- ・市のひろばで、今後もバス等でガイド付きの自然百選や遊歩道を散策できるとよいと思う。
- ・小さな子供連れで安全なところ
- ・ペットと遊べる（ペットと入れる）

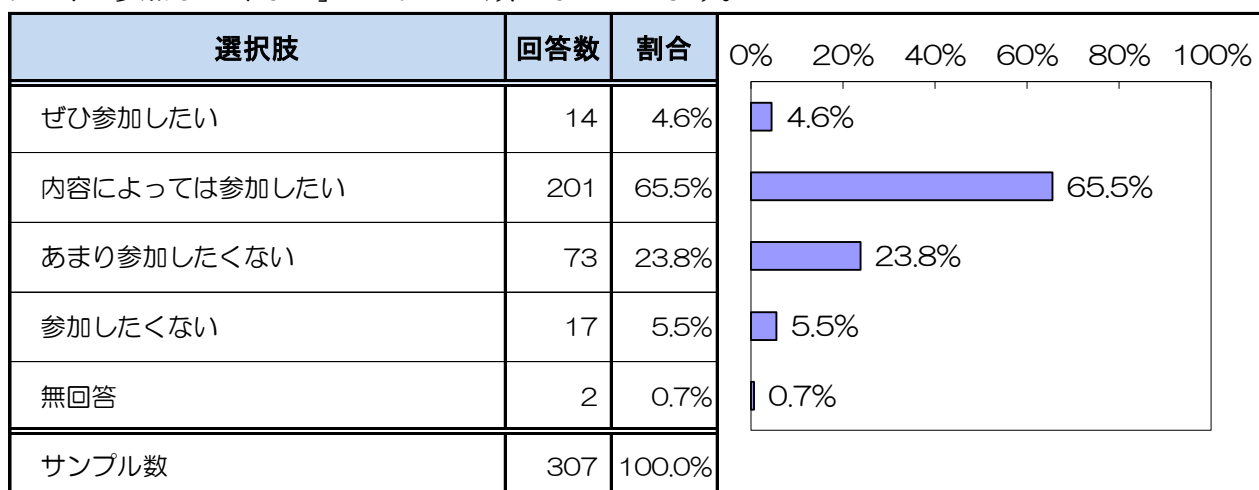
問 27 現在、生物多様性を保全するための取組が進められていますが、このことについてどのように考えますか。(単一回答)

「人間の生活が制約されない程度に、環境の保全を進める」が 61.2%と最も高く、次いで、「人間の生活が制約されても、環境の保全を優先する」の 33.9%、「人間の生活の豊かさのために、環境が多少失われてもやむを得ない」の 2.6%の順となっています。



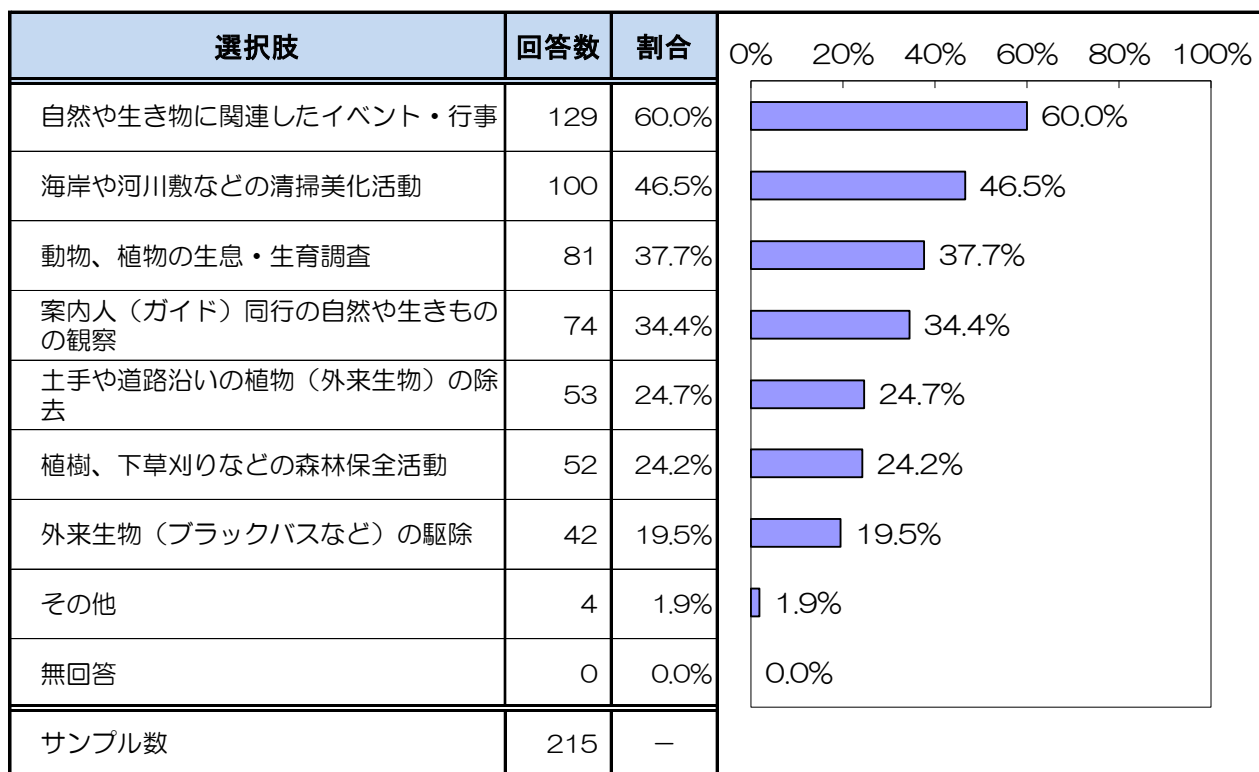
問 28 生物多様性の保全は、行政、地域の人々、市民活動団体（NPO）などが連携して取り組んでいくことが求められています。生物多様性を保全するための活動に参加したいと思いますか。(単一回答)

「内容によっては参加したい」が 65.5%と最も高く、次いで、「あまり参加したくない」の 23.8%、「参加したくない」の 5.5%の順となっています。



問 29 問28で「1. ぜひ参加したい」、「2. 内容によっては参加したい」と答えた方にお伺いします。どのような活動なら参加しますか。(複数回答)

「自然や生き物に関連したイベント・行事」が60.0%と最も高く、次いで、「海岸や河川敷などの清掃美化活動」の46.5%、「動物、植物の生息・生育調査」の37.7%の順となっています。

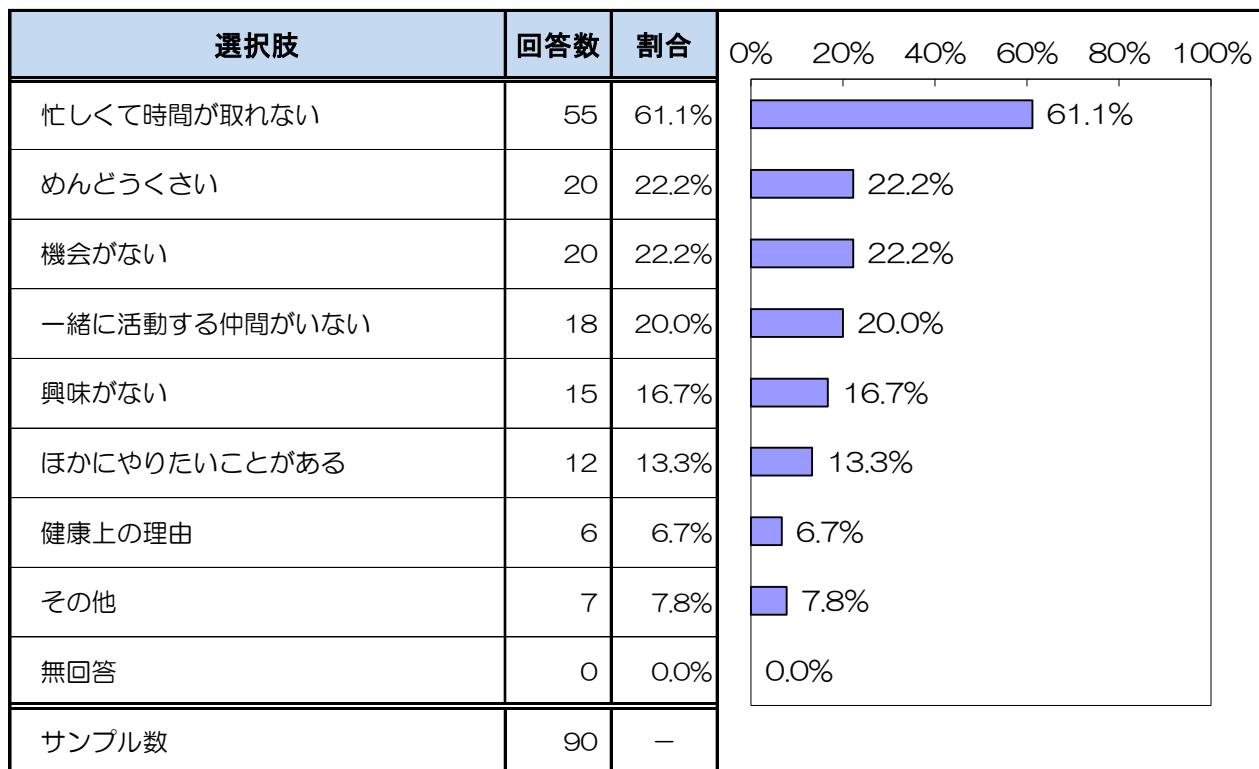


◆その他の回答（一部抜粋・原文まま）

- ・まだ子供が小さいので危なく無い、そして理解できる年になれば参加したい

問 30 問28で「3. あまり参加したくない」、「4. 参加したくない」と答えた方にお伺いします。参加したくないのはなぜですか。(複数回答)

「忙しくて時間が取れない」が61.1%と最も高く、次いで、「めんどくさい」「機会がない」の22.2%の順となっています。

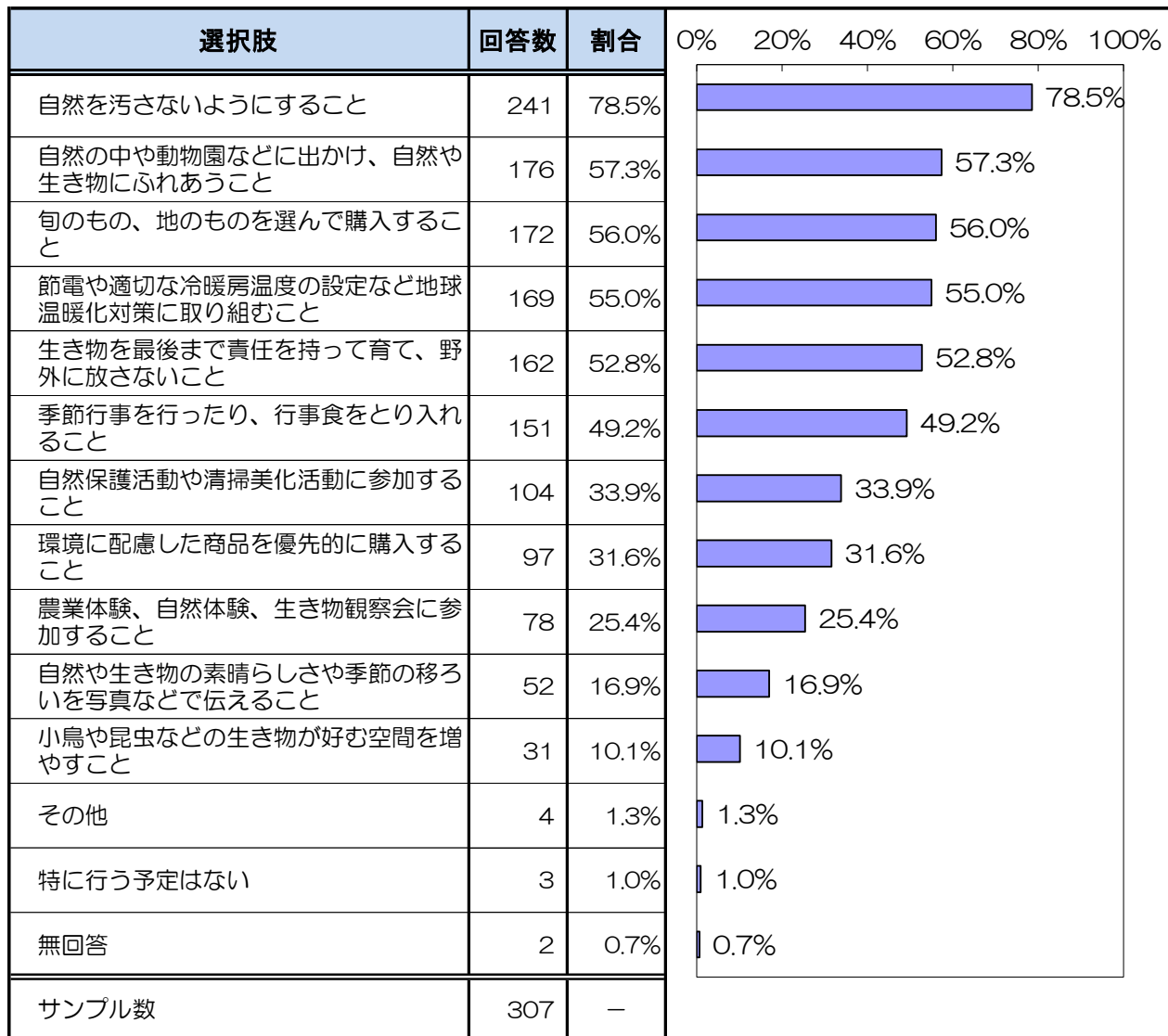


◆その他の回答（一部抜粋・原文まま）

- ・一番は年齢です。体力的に他の皆様に遅れを取らないか？
- ・コロナなのでイベント事・人ごみには参加しない
- ・虫、魚、など動物に苦手意識があるので、触れ合う事が怖くて、積極的に活動に参加できない。

問 31 生物多様性を感じ、理解し、保全していくため、あなたはこれからどのようなことを行いたいと思いますか。(複数回答)

「自然を汚さないようにすること」が78.5%と最も高く、次いで、「自然の中や動物園などに出かけ、自然や生き物にふれあうこと」の57.3%、「旬のもの、地のものを選んで購入すること」の56.0%の順となっています。



◆その他の回答（一部抜粋・原文まま）

- ・ こどもに教えていく
- ・ 今まで以上に自然（環境）に関心をもつようにする。

問 32 生物多様性（自然、生き物）について、どのようなことでも構いませんので、自由にご記入ください。

◆回答一覧（一部抜粋・原文まま）

| 回答内容 | 性別 | 年代 | 地域 |
|---|----|------|----|
| 知らないことがたくさんあるので、すばらしさを伝える活動が必要だと思います。例えばテレビやYouTubeなど。 | 女 | 30歳代 | 谷山 |
| 子供達にとっても自然に触れる事はとても良いことだと思いますので、子供向けのイベントがあれば進んで参加したいと思います。 | 女 | 30歳代 | 谷山 |
| 人間も自然の一部であるので、自然や動植物とうまく共生していかないといけないと思う。人間のエゴで自然環境や動植物を汚してはいけない。 | 男 | 60歳代 | 中央 |
| 日常生活に支障をきたすほどの生物多様性は、もとめないが、今ある豊かな自然は守らなければならない。 | 女 | 50歳代 | 伊敷 |